授業科目　公衆栄養学Ⅰ

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	栄養
村山伸子	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【一般目標：ＧＩＯ】

公衆栄養学Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅰでは、日本を中心に、①公衆栄養学の概念と枠組みと計画・実施・評価の進め方、②社会における栄養問題の実態把握、③公衆栄養活動の基盤としての組織、制度、法規、④主要な栄養政策や栄養プログラムについて、ディスカッション形式を入れながら主体的に学ぶ。

【行動目標：ＳＢＯ】

1．公衆栄養学の概念と公衆栄養活動の目的について説明する。
2．ヘルスプロモーションと関連づけて公衆栄養活動の計画・実施・評価の枠組みと手順を説明する。
3．日本人の健康、栄養状態、食生活、食環境等のデータを分析し、現状と課題を読み取る。
4．日本の栄養政策について（特に制度基盤、食事摂取基準、国民健康・栄養調査、食生活指針、健康日本２１など）目的と概要を説明する。
5．自治体の役割と公衆栄養プログラムについて、全体像を理解し、その内主要なものについて資料をもとに説明する。
6．国際的な栄養問題の主要なものについて、現状、原因、対策について、資料をもとに説明する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	公衆栄養学の概念と目的（生態系、地域、集団、ヘルスプロモーション）	1	講義
2	公衆栄養マネジメント、公衆栄養アセスメントの枠組み	2	講義
3	日本人の健康、栄養問題の現状と課題：①高齢社会と健康・栄養問題、②健康状態の変化、③食事の変化、④食生活の変化、⑤食環境の変化などについて、「国民栄養の現状」などのデータをもとに構造的に把握する。	3	講義、ワークショップ
4	同上	3	講義、ワークショップ
5	日本の栄養政策：①公衆栄養活動の歴史、②公衆栄養活動の制度的基盤、③栄養士・管理栄養士養成制度、④国民健康・栄養調査、⑤食生活指針、運動指針、休養指針、⑥健康日本２１と地方計画策定	4	講義
6	同上	4	講義
7	日本の栄養政策：食事摂取基準（基礎概念）	4	講義
8	日本の栄養政策：食事摂取基準（各論）	4	講義
9	日本の栄養政策：食事摂取基準（活用１）	4	講義、演習
10	日本の栄養政策：食事摂取基準（活用２）	4	講義、演習
11	自治体の公衆栄養活動：県・保健所のプログラム	5	講義
12	自治体の公衆栄養活動：市町村のプログラム	5	講義
13	国際的な栄養問題の現状と結果、原因、対策―先進国、途上国	6	講義
14	まとめ		

【使用図書】	＜書名＞　＜著者名＞　＜発行所＞　＜発行年・価格・その他＞
教科書	公衆栄養学　（南江堂） 平成16年度国民健康栄養調査報告　最新版　健康・栄養情報研究会　第一出版 日本人の食事摂取基準2005年版　健康・栄養情報研究会　（第一出版） 日本人の食事摂取基準の活用　健康・栄養情報研究会　（第一出版）
参考書	
その他の資料	

【評価方法】
出席２０％
積極的参加２０％
期末試験６０％

【履修上の留意点】
参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。社会的な事象に興味をもつこと。

健康栄養学科　専門